様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６１５
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2009～2013
課題番号：２１５２０２９１

研究課題名（和文）太平洋文化圏における翻訳の海流

研究課題名（英文）Littoral Translation: circulating theories, linguistic presence, and performances of translation around the Pacific Rim

研究代表者
Ｃｕｒｒａｎ　Ｂｅｖｅｒｌｅｙ（CURRAN, Beverley）

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：３０２０９２０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,500,000円、（間接経費）　1,050,000円

研究成果の概要（和文）：異文化間の翻訳がいかに環太平洋地域を循環するかを探求し、カナダ西海岸の日本語の存在と日本の著作が変容していく様子を調査した本研究の成果は、①雑誌や論集への６本の論文執筆、②編纂された一冊の論集(出版予定)、③日本・カナダなどの翻訳家と翻訳研究者が一同に会した国際シンポジウム開催、④国内外の学会における口演発表10回、⑤野上豊一郎作の評論の共同翻訳、⑥新メディア芸術家Jeanne Hilary氏との創造的共同作業による翻訳についての短編映画製作(現在製作中)である。また、調査・インタビュー・意見交換の中で深められた知見は、あらゆる面で人間の生活をテクノロジーが媒介しているかということであった。

研究成果の概要（英文）：The outcomes of this research project about how translation circulates as intercultural flow, particularly around Japan and the Pacific Rim, include seven published articles; an edited collection of essays now ready to submit to Routledge; an international symposium, that brought together translators and translation studies scholars from Japan, Canada, and the UK; ten presentations at national/international conferences; a collaborative translation of an essay on translation by Toyoichiro Nogami; and a short film (still in production) about translation, grew out of a creative collaboration with New York-based new media artist, Jeanne Hilary. Research, interviews, and exchanges made me increasingly aware of how thoroughly technology mediates our lives; and the earthquake/tsunami/Fukushima nuclear accident in Tohoku, which occurred during the course of this project, showed how interconnected the flow of our lives and oceans are and how quickly both can be translated.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：トランスレーション･スタディーズ　比較文学　パフォーマンス研究　カナダ文学　交流文化　日本翻訳理論　文化翻訳　漫画・グラフィック・ナラティブ翻訳

１．研究開始当初の背景

(1)本研究は、2000 年に始まったカナダとオーストラリアの、アングロフォン文学における翻訳表現の検討および、日本カナダ基金の支援を受けて発表したケベック作家 ニコル・ブロサール著『Journal intime』 の日本語訳（2000 年）の制作に基づいて構築された。翻訳のフィクション化に対する批判的検討と翻訳プロジェクトは、環太平洋地域における文化の循環としての翻訳に焦点を当てたものであり、さらにダイグロシア(二言語変種使い分け)や、言語的・文化的同化が存在する状況下で、言語的アイデンティティを想像することによって、創造的活動として翻訳をとらえた。

(2)ケベック・フランス語を扱い、先住民族の言語、日本語、そして同化政策と社会的疎外によってダメージを受けた他の土着言語とディアスポラ言語から選定された言葉の、戦略的使用を調査することにより、植民地化の影響が残る中、地球規模で民族移動する現状において、翻訳が複雑に機能することが明確になった。また、これまで研究されてこなかった分野である創造的制作翻訳が、日本に存在することが明らかになり、2005 年には、日本における演劇の翻訳と翻訳された作品の舞台化に目を向けることにした。それは、アメリカ南部の人種差別に関する演劇を、日本の翻訳家と劇団が翻訳して舞台化することや、ジェンダーの上演が伝統として確立されている国で、ケッベク発祥のゲイ演劇が舞台化されるとどうなるのかということに対して、深い興味が駆り立てられた。

(3)愛知淑徳大学から２年間の研究基金を受け、ジェームズ・ボールドウイン作 『Blues for Mister Charlie』(白人へのブルース)はじめとする６つの西洋演劇を調査した。それらは根本的に、社会の主流から取り残された言葉と身体を備え、1960 年以降日本において翻訳され舞台化されてきたものだった。その研究成果である『Theatre Translation Theory and Performance in Contemporary Japan: Native Voices, Foreign Bodies』(2008)は、戦後の昭和と平成における劇場翻訳の理論・実践・上演を位置づけ、翻訳と舞台における言葉と身体の複雑な相互作用についての西洋的概念の再考を促した。

(4)日本における翻訳について英語で発表することが何を意味するか、それは、ヨーロッパの国と言語こそが、言語の源であり翻訳研究の理論的出発点なのだと単純に決めつけてしまう既成概念に変化を促し影響を与える様々な考え方を知らしめることになるのだ。文化間交流における日本と日本語に対する関心は 2007 年発刊の翻訳を特集した *Theatre Journal* 特別号で発表した今回の研究に関連する論文にうかがえる。

(5)こうした先行研究は、日本では今まで見過ごされて来た文化が移動して循環していく流れの中で翻訳の側面に注意を喚起したが、日本における翻訳研究の認知度を高めるという点では課題が残されたままだ。南北アメリカにおける日本語の言語的存在を探索すること、特に西海岸の文化的歴史として、そして翻訳が環太平洋周辺の多文化的でディアスポア的なコミュニティの中心として展開する。2001 年の評論“What’s Different about Translation in the Americas?”で Edwin Gentzler は多文化的・多方向的な翻訳の性質の重要性を指摘したが、日本における翻訳についても同様に、大きく異なる点があると思われる。

２．研究の目的

本研究では環太平洋文化圏における翻訳理論を調査分析し、言語の存在と生産活動を研究する。特に北米大陸 に見られる土着言語、社会の主流から取り残された言語、同化政策によって損傷を受けた言語が、日本語への翻訳においてどのように生き残るかについて調査する。また文芸評論家と翻訳家が、そうした作品にどのように反応してきたか、また、日本における言語多様性とダイグロシア(二言語変種使い分け)の深い理解のために、どのような副次的影響をもつかを調査する。さらにはカナダのディアスポラ（離散定住集団）による日本語の文学的使用の調査を通して、北米大陸におけるアジア言語の循環と、日本・カナダ・アメリカ合衆国で見られる多様な英語の言語内複雑性に対して、翻訳研究からの注目を喚起することである。最後に、環太平洋文化圏における翻訳活動を創造的共同作業によって探求し「翻訳」を多様な形で循環する生産的文化活動として位置づけたい。

３．研究の方法

研究方法としては、広範な分野の文化作品の深読と比較分析、インタビュー形式の量的調査、創造的関与、といった多岐にわたる手法を組み合わせた「ツールボックス手法」を用いた。それは、次の３つの相互関連した循環で構成されている。(1) カナダ・アメリカ合衆国・日本に保管されている記録文書の精読と理論的分析、日系カナダ人による文学作品の日本語翻訳の叙述的分析 (2) 作品中に翻訳を埋め込んでいる創造的実践家らに対する観察と面接調査 (3) 「翻訳についての短編映画」を新たに創出するための、写真家で新メディア芸術家の Jeanne Hilary 氏との共同制作と、日本の大学授業での活用のための文化的変換であった。

４．研究成果

平成 21 年度

4 月から 6 月にかけて必要資料を入手し分析を開始した。7 月 8 日～10 日にオーストラリ

アのメルボルン市の Monash 大学で行われた第３回国際翻訳・交流文化研究会(IATIS)国際大会において 「Intercultural Noh Theatre and Translating Stories of the Diaspora: Daphne Marlatt's *The Gull: The Steveston Noh Project*」という演題で発表した。9 月 28 日に京都においてカナダの Concordia 大学 フランス言語・文学部の翻訳研究者 Sherry Simon 氏に、カナダにおける翻訳研究(Translation Studies) や「翻訳の海流」についてインタビューした。10 月末にカナダのバンクーバー市へ行き、University of British Columbia にある日本語資料を入手し、そして翻訳研究者 Kathy Mezei 氏に連絡をとり、作家 Daphne Marlatt 氏にインタビューした。また、メディア・アーティスト Jeanne Hilary 氏と創造的な翻訳についてのビデオ台本を書き始め、ストーリーの計画を立てた。このビデオ・プロジェクトは「グローバル社会に遍在する翻訳の重要性」を創造的にどのように表現するかという挑戦である。

カナダ出張後は、カナダから日本に入る日本語について着目し、カナダ日系文学における日本語翻訳について研究した。平成 22 年 1 月 9 日～10 日に京都の立命館大学で Translation Studies in the Japanese Context（日本における翻訳学の行方）というテーマで国際会議が開催されたが、これは日本で初めて開催された翻訳研究（TS）大会として重要な意味を持つ学術的イベントであり、そこで「Japanese in Shifting Contexts: Translating Canadian Nikkei Writers into Japanese」（移行する文脈における日本語―日系カナダ人の日本語から日本の日本語への翻訳について）という演題で発表した。

平成 22 年度

翻訳について、創造的に考え、実践し、教えるために、ニューヨークの写真家で映画製作の新メディア芸術家である Jeanne Hilary 氏と共同作業を進めた。さらに Daphne Marlatt 氏をはじめとする作家たちにインタビューを行い、カナダ能楽（英語版と日本語）について論文を Monash 大学で発表した。

平成 23 年度

4 月 29 日～5 月 1 日にマンチェスター市(UK)へ行き Translation Research Methods II 国際研究大会で論文 Translation and its Doubles: performances of Japanese as a minority /performances in Japanese of a minority を発表した。この論文の研究目的はコミュニティにおける研究について発表し出版することである。

3 月 11 日の大震災のために延期されていた「トランスレーション・コミュニティー多元・多文化・多目的」という国際シンポジウムが愛知淑徳大学星ヶ丘キャンパスにおいて 11 月 6 日に開催された。シンポジウムでは「翻訳とコミュニティ」「詩を翻訳する」「メディア翻訳」という３つのパネルがあり、私は「メディア翻訳」のパネルで「Death Note–翻訳におけるバイリンガル漫画」という論文を発表した。

このシンポジウムの招待基調講演は、作家・詩人・翻訳者の池澤夏樹であった。池澤氏は「山浦玄嗣の『ケセン語新約聖書』–翻訳はだれとだれをつなぐのか」について発表していた。ケセン語、英語、手話、アイヌの口頭伝承・・・日本における多元的な社会、また日本におけるトランスレーション・コミュニティーについてよく理解できた。

能楽の翻訳についても研究を行なった。まずカナダ人の作家 Daphne Marlatt の『かごめ』という能楽についての論文を出版することになった。また、野上豊一郎の能楽に関する翻訳理論についての論文も、「翻訳とパフォーマンス」についての論集で 2013 年に出版した。

平成 24 年度

５月にニュー・メディアアーティスト Jeanne Hilary 氏が来日し、創造的な翻訳の教材として The Truth という短編映画について Hilary 氏へインタビューをした。異言語・異文化・翻訳、メディア・トランスレーション、また non-fiction visual narratives や Internet など、民主主義とどのような関係があるかについて議論した。Hilary の言葉から「Just as democracy continually expands our ideas about who may speak, so does media expand our understanding of how we define ourselves in the public space」という知見を得た。また同時に翻訳の社会的・政治的な役割についても意見交換をした。

7 月 21 日～31 日に北アイルランドのベルファスト市へ行き国際翻訳・交流文化研究会 IATIS の国際研究大会に参加した。研究大会のテーマは「翻訳と政治の関係」についてであったので 30 年代の日本の政治的な思想と野上豊一郎の能楽翻訳理論についての論文「Recognizing the politics of Noh translation: Nogami Toyoichiro's translation theories」を発表した。また、「Nogami Toyoichiro's Noh translation theories and the primacy of performance」という論文を『Theatre Translation in Performance』論集に発表した。

9 月 11 日～18 日にロンドン市へ行き、FILM-PHILOSOPHY 国際研究大会に参加して、翻訳理論はどのように映画理論が影響できるか考え、特に翻訳は映画や映画理論、哲学等のグローバル交流・流れの中でどのような役を果たすのか検討した。ここでは毎日、見識者のプレゼンテーションを聴き、映画論と翻訳（特に現在メディア・トランスレーション）とは深い関係がある改めて実感した。映画や翻訳はどちらも共同作業が必要な作品

であり交渉と選択はその重要な要素なのだ。

平成 25 年度
２月 19 日～28 日に先住民文化フェスティバルに参加するために、バンクーバーへ行った。先住民の文化や芸術と翻訳の関係についてよく考えさせられた。
4 月～7 月の間に日本マンガでは『DEATH NOTE』を、カナダ・アメリカのグラフィック・ナラティブでは、Chester Brown の Louis Riel や、Art Spiegelman の In the Shadow of No Towers を再読し、分析した。8 月 10 日～14 日 International Research Society for Children's Literature (IRSCL)が，オランダの Maastricht 大学,で行われたが、そこで「Refinding *Death Note* in manga, anime, live action」という論文を発表した。
９月 24 日から 30 日まで、ニューヨーク市とバーモント州ミドルベリー市に滞在し、調査を行い「翻訳研究：An (Inter)Discipline Comes of Age」というパネルで、バイリンガルの漫画翻訳についての口演発表を行った。そのシンポジウムは同月 28 日に終了し、ニューヨークでは Jeanne Hilary 氏と会った。Hilary 氏とのインタビューでは、「コミュニティと参加」について探求した前作品 Eden が、The Truth is Not My Native Tongue において、コミュニティと翻訳とメディアに関与するように、どのように発展していったかについて話し合った。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計　6　件）
① CURRAN, Beverley. "East Meets West Coast in Canadian Noh: The Gull." (査読有)*Translation Effects: The Making of Modern Culture in Canada*. Eds. Luise von Flotow, Kathy Mezei, and Sherry Simon. Montreal & Kingston: McGill-Queens UP, 2014. 371-81
② CURRAN, Beverley. "Nogami Toyoichiro's Noh translation theory and the primacy of performance." (査読有) *Theatre Translation in Performance*. Eds. Paola Ambrosi, Silvia Bigliazzi, and Peter Koffer. London: Routledge: 2013. 211-22.
③ CURRAN, Beverley. "Salvage / survival: obsessive return in Daphne Marlatt's west coast poetry." (査読有) *Studies in Canadian Literature*・カナダ文学研究 21: 47-56.
④ CURRAN, Beverley. "The Gull: Noh as Intercultural Webwork." (査読有) *Words, Images, and Performances in Translation*. Eds. Rita Wilson and Brigid Maher. New York: Continnum, 2012. 82-99.
⑤ CURRAN, Beverley. 「移動する文脈における日本語 ―日系カナダ人の日本語から日本の日本語への翻訳」(査読有)『トランスレーション・スタディーズ』 東京　水書房 2011 年 159-178 頁
⑥ CURRAN, Beverley. "Translating Canadian Nikkei Writers into Japanese: Japanese in shifting contexts." (査読有) *Translation and Translation Studies in the Japanese Context*. Eds Nana Sato-Rossberg and Judy Wakabayashi. London: Continuum, 2012. 152-156.

〔学会発表〕（計　11　件）
① CURRAN, Beverley. "The Multi-Tasking of the Translator: teaching TS with multilingual manga and comics." East-Asian Translation Studies Conference. 19-21 June 2014. East Anglia University, Norwich UK.
② 山森　孝彦. "Translation Therapy: Teaching Translation Awareness at Medical Universities in Japan." East-Asian Translation Studies Conference. 19-21 June 2014. East Anglia University, Norwich UK.
③ CURRAN, Beverley. "Look Who's Morphing: bilingual manga in translation." Clifford Symposium, 24-28 September 2013, Middlebury College, Middlebury VT (アメリカ)
④ CURRAN, Beverley. "Refinding *Death Note* in manga, anime, live action." International Research Society for Children's Literature. 10-14 August 2013, Maastricht University (オランダ)
⑤ CURRAN, Beverley. "Salvage / Survival: obsessive return in Daphne Marlatt's west coast poetry." 日本カナダ文学会第 31 回年次研究大会、2013 年 6 月 13 日北海道武蔵女子短期大学
⑥ CURRAN, Beverley. "Recognizing the politics of Noh Translation: Nogami Toyoichiro's translation theories." Fourth Conference of the Association for Translation and Intercultural Studies (IATIS), 23-27 July 2012, Queens University Belfast（北アイルランド）
⑦ CURRAN, Beverley. "Translation and its Doubles: performances of Japanese as a minority/performances in Japanese of a minority." Research Models in Translation Studies II, 29 April-2 May 2011, The Manchester Conference Centre, Manchester (UK)
⑧ CURRAN, Beverley. "Death Note in Japanese and English." International

Symposium. Multiple Translation Communities in Japan, 2011 年 11 月 6 日　愛知淑徳大学、名古屋

⑨ CURRAN, Beverley. “Noh Directions: the circulation of ideas in the translation theory and criticism of Nogami Toyoichiro.” The Fourth Asian Translation Traditions Conference, 15-17 December 2010, The Chinese University of Hong Kong.（香港）

⑩ CURRAN, Beverley. “Japanese in shifting contexts: Translating Canadian Nikkei writers into Japanese.” Translation Studies in the Japanese Context International Conference. 2010 年 1 月 9 日～10 日、立命館大学、京都

⑪ CURRAN, Beverley. “Intercultural Noh Theatre and Translating Stories of the Diaspora: Daphne Marlatt’s The Gull: The Steveston Noh Project. Third Conference of the International Association for Translation and Intercultural Studies (IATIS), 8-10 Jully 2009, Monash University, Melbourne（オーストラリア）

〔図書〕（計　1　件）

① Multiple Translation Communities in Contemporary Japan. Eds. Beverley Curran, Nana Sato-Rossberg, and Kikuko Tanabe. New York: Routledge [in press]

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

○取得状況（計　0　件）

〔その他〕

ホームページ等

なし

６．研究組織

(1)研究代表者

カレン　ベヴァリー　(Curran, Beverly)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：30209209

(2)研究分担者

山森　孝彦　(YAMAMORI, Takahiko)

愛知医科大学・医学部・教授

研究者番号：70387819

（2010 年度まで）

(3)連携研究者

山森　孝彦　(YAMAMORI, Takahiko)

愛知医科大学・医学部・教授

研究者番号：70387819

（2011 年度-2012 年度まで）